復興「ありがとう」ホストタウン

beyond 2020 ホストタウン

釜石市は２０１７年にオーストラリアを相手国とした復興「ありがとう」ホストタウンへの登録を受け、東日本大震災からの復興へ思いを寄せてくださったことへの感謝を伝える機会をいただき交流を深めてきました。新型コロナウイルスの影響で東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会の延期が決まり、予定していたオーストラリアとの交流活動も残念ながら休止せざるを得ない状況が続いていますが、友情を育んできたこれまでの取り組みや関わった人々の思いを紹介することで、より一層の継続的な交流活動につなげていきたいと考えております。震災発生当時、釜石シーウェイブスRFCに所属し、後にラグビーオーストラリア代表となるスコット・ファーディーさんが母国の帰国勧奨を受けても釜石にとどまり、救援活動に心を注いだ姿は多くの市民に勇気を与えてくれました。この友情も土台となり、青少年を中心に交流活動を重ねてきました。オーストラリアで昨年９月ごろから発生した大規模森林火災の際、世代を超えた市民らが「人ごとではない」との思いを強くして支援募金活動に励みました。震災から１０年を迎える年に開催されるオリンピック・パラリンピックは、私たちが育んできた絆をさらに強くするチャンスでもあります。オーストラリアの皆さんとの友情が末永く続くことを願います。

タグラグビーを楽しみ、児童と触れ合うスコット・ファーディーさん＝２０１８年３月12日、釜石市・小佐野小（年表❷）

釜石市はオーストラリアのホストタウンです

「若い世代に大きく期待」

震災発生当時 釜石ＳＷ 在籍 スコット・ファーディーさん

１０年前、町はひどい状態でしたが、釜石のみなさんは信じられないくらい強く、私も元気をもらいました。何らかの形で町を助けることができればと思い、チームメイトや友人たちがいる釜石にとどまりました。

私は、釜石に住んでいた３年間で、一人の人間として大きく成長しました。釜石は、私個人にとって、とても大きな意味を持っています。

ラグビーワールドカップが開催された釜石を訪ね交流活動に参加した際に、釜石の皆さんがどれだけの努力をしてきたのかを知り、とても感銘を受けました。多くの人々が、日本の「釜石」という地域を知り、楽しんでいたのは本当に嬉しかったです。

オーストラリアと日本は、長年にわたって深い絆を築いてきています。今日のように、これからもずっと「良き友」であり続けたいと思います。

また、もっと多くのオーストラリア人が、来日の際に釜石を訪れることを望んでいます。

釜石の若い世代に大きく期待しています。将来、私の子どもたちを釜石に連れて行って、今日の釜石の子どもたち世代が築きあげてきたものを見るのがとても楽しみです。

スコット・ファーディーさん　オーストラリア出身で２００９年から１１年秋まで釜石シーウェイブスＲＦＣに所属。震災直後はクラブハウスから約８キロ離れた支援物資集積所に毎朝歩いて通い人力での物資搬送に当たりました。停電でエレベーターが止まった施設で市民を担いで階段を上がり下がりして運ぶなど尽力。１５年のラグビーワールドカップで豪州代表として準優勝に貢献しました。１９８４年生まれ。

震災後も釜石に残り試合で奮闘し市民を勇気づけたスコット・ファーディーさん＝１１年１０月２３日、釜石市球技場（年表❶）

釜石とオーストラリアの主な交流年表

２０１１年　３月１１日	■東日本大震災発生。釜石シーウェイブスRFCに在籍していたスコット・ファーディーさんは釜石にとどまり救援活動にあたる。秋まで在籍し試合でも市民を励ました。❶
２０１５年　３月	■豪州ビクトリア州マセドンレンジズ市への中学生の海外体験学習事業開始（姉妹都市の東海市と合同）
２０１６年　３月	■中学生海外体験学習事業
８月	■釜石市初の国際交流員として、豪出身エミリー・ハラムズさんを採用
２０１７年　３月	■中学生海外体験学習事業
１０月	■復興支援ラグビー交流会（元豪代表４人と釜石東中、鵜住居小の交流会）
１１月	■復興「ありがとう」ホストタウン登録決定
２０１８年　３月	■スコット・ファーディーさんを招待し小佐野小６年生と交流事業、市内高校生にラグビークリニック❷
	■『おかえりファーディー！』市民対象タウンミーティング
	■中学生海外体験学習事業
９月	■豪州の小学生を招待し釜石小６年生と交流事業❸
	■釜石キッズラグビー国際交流プログラムとの連携事業❹
１１月	■副市長ら豪州訪問
２０１９年　３月	■中学生海外体験学習事業
５月	■ラグビー豪州代表マット・ギタウさんら釜石来訪
７月	■モスバーガー釜石店で店舗展示、交流発信
９月	■ラグビーワールドカップ釜石開催に合わせてスコット・ファーディーさんの招待と豪州の高校生との交流事業❺
１１月	■豪州の小学生を招待し、双葉小６年生と交流事業❻
	■小田原市小学生交流事業（ホストタウン連携）
	■豪州、小田原市を交えて市内小学校対抗タグラグビー大会
２０２０年　１月２４日～３月３１日	■豪州森林火災災害支援募金実施❼ １３５万５４６９円が寄せられた
２月	■豪州の連邦・州議会議員らが釜石の復興状況視察
３月	■ホストタウン記念切手を２００シート限定で発売❽
７月	■ホストタウン市民応援メッセージ動画作成
９月	■豪州の学校と釜石市内の中学生とインターネットなどでつなぐ教育交流プログラム「ともだち２０２０」パイロットプログラム開始❾

ホストタウン記念切手シート（年表❽）

釜石高と釜石商工高の生徒にラグビー指導するスコット・ファーディーさん＝１８年３月１２日、市球技場（年表❷）

釜石の小学校で郷土芸能の虎舞の紹介を受けるオーストラリアの小学生＝１８年９月１４日、釜石小（年表❸）

「帰国後、震災や釜石のことを友達に伝えたい」釜石キッズラグビー国際交流プログラムで熱戦を繰り広げた豪州と釜石の児童＝１８年９月１５日、釜石鵜住居復興スタジアム（年表❹）

「相手の体の強さを感じた。食文化も紹介できて良かった」試合後にオージービーフや釜石産のタコとイカ、県産米を使った「せかいむすび」づくりで交流する豪州日本遠征チームと県選抜の高校生＝１９年９月２４日、市球技場クラブハウス（年表❺）

動画を通じて工夫して日本の文化を伝える釜石の中学生＝２０年１０月、釜石市青葉ビル（年表❾）

文化紹介、光る工夫

釜石の中学生8人 豪州の生徒と動画交流

「これは忍法隠れみの術です」「英語の名前に漢字をあてるとこうなるよ」。釜石市内の中学生８人は９月から、オーストラリアのパラヒルズ高校で日本語を学ぶ同世代とお互いの文化を理解しようと交流を深めています。８人は３月に現地に行く予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で訪問を見合わせ。新たな取り組みとしてビデオメッセージ交換が始まり、工夫してコミュニケーションを重ねています。

忍者やアニメを紹介する班は、やり取りの中で日本のアニメが好きな生徒がいることが分かり、忍者のマンガと一緒に伝えることに。「隠れみの術」のビデオ撮影では、壁際にしゃがみ込み、タオルケットで身を隠してからパッと現れるなどアイデアを駆使しました。

エミリーは「笑美理」。相手の生徒の名前に漢字をあてる取り組みをした班は、暗い意味になるような漢字を避けて選びました。甲子中２年の佐々凱音さんは「画数も少なめにしたので実際に使ってくれるとうれしいです」と期待していました。

企画はオーストラリアオリンピック委員会の主催で、１０月末まで２週間に１回のペースでビデオを送り合い交流し、１１月３日には、オンラインでつないでリアルタイムに対話し、さらに友好を深めます。

日本の太鼓の響かせ方を釜石の小学生から教わるオーストラリアの小学生＝１９年１１月１５日、双葉小（年表❻）

「震災で被災し、家や大切な存在を失う思いが分かる。少しでも力になれれば」オーストラリアの大規模森林火災の早期鎮火を願い募金する市民＝２０年１月２７日、釜石市内（年表❼）

釜石は「ふるさと」

在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所事務局長
エミリー・ハラムズさん

釜石市で１月末まで国際交流員として３年半お世話になり、多くの人との出会いに恵まれました。現在は東京で在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所に勤めていますが、昨年のラグビーワールドカップ釜石開催をみんなで成功に導いたことは生涯忘れることはありません。

あの日、皆さんの笑顔は輝いていました。多くのボランティアによるおもてなし、飲食店やホテルスタッフの英語での丁寧な接客、スタジアム敷地内では津波防災伝承活動などを行う生徒の姿も。まさに「ONE TEAM」でした。多くの外国人客から「釜石は最高だね」「この景色はとてもきれい」という声を耳にできて「やっと世界は釜石をちゃんと見て魅力を分かってくれた」と感じ、うれしかったです。

釜石は私にとって日本の「ふるさと」です。その故郷から、オーストラリアの大規模森林火災に際し、支援金募金で心を寄せていただき大変感謝しています。オリンピック・パラリンピックをきっかけに、ホストタウンとなった釜石に親しみを感じるオーストラリア人が増える流れを生み出す「懸け橋」となれるように頑張りたいです。

ラグビーワールドカップ釜石開催を笑顔で迎えたエミリー・ハラムズさん＝１９年９月２５日、釜石鵜住居復興スタジアム

お互いさまを実践

かまいし絆会議
会　長　正木 快歩さん（上）
副会長　金野 怜佳さん（下）
（ともに釜石中学校３年生）

オーストラリアの大規模森林火災を受けて、釜石市内の全小中学校１４校からなる「かまいし絆会議」で支援金の募金活動をしました。取り組みは約１週間で総額約３０万円に達し、まさかこんなに集まるとは思っていませんでした。世界的なニュースになっている惨事に、私たち小中学生でも力になれるのだと感じました。

募金は各学校で行い、釜石中学校では生徒会が校舎内に張り紙や、全校朝会での呼び掛け、全ての生徒にプリントを配るなどして協力を求めました。学級ごとに用意した募金の瓶を職員室前に置き、学級の代表が毎朝それを手にして集めました。

釜石は東日本大震災で被災し国内外から多くの支援を受けました。最近は国内での自然災害も多発しています。募金活動を通し、助けたり助けられたりする「お互いさま」の大切さに気づきました。経験を生かし、オーストラリアとの交流も深められればと思います。

かまいし絆会議と大館市こどもサミットの交流会で、オーストラリアへの募金について意見交換する児童生徒＝２０年２月７日、釜石市民ホールTETTO

豪州体験が土台に

東北学院大学工学部
環境建設工学科建築コース
2年　佐々木 裕人さん

中学２年の時にオーストラリアに行き、何ごとにも能動的に関わる大切さを学びました。自分の英語がどのくらい通じるか興味があり、市の海外体験学習事業の選考に手を上げての参加でした。滞在当初は「とにかく意思を伝えなければ」と力んだものでしたが、迎えてくれた人々は、とてもフレンドリーで、ホストファミリーや現地の学校の生徒たちと、コミュニケーションできた時の感動は忘れられません。

中学当時から建築物に関心があり、見学に行ったオペラハウスをはじめ、目に映る建物全てが興味深かったです。現在、大学やサークル活動で建築について学ぶ中で、英語で情報収集したり海外の方と対話する機会もあります。国籍を超えて交流し、ものごとを創造するのは楽しいです。

将来は釜石に戻り、建築の仕事を通してまちづくりの力になりたいです。自分がホストファミリーとなり、オーストラリアの子どもたちを受け入れてもみたい。年齢を問わず世代を超えた人々が交流することで、まちに新たな可能性を見いだせると思っています。

オーストラリアの学生と交流する佐々木裕人さん（当時、甲子中学校２年生）＝１５年３月、オーストラリア

復興の釜石に学ぶ

レッドフィールドカレッジ
ジョセフ・アッサフさん（上）
ジョーダン・ハッチャーさん（下）
（ともに13歳）

釜石は、大変な災害に襲われた後でしたが、人々が協力して、今まで以上に彩りあふれて親しみやすく、美しい町を築いていると思いました。釜石滞在中、とても歓迎されてうれしかったです。どんなに困難な時があっても、乗り越えることができ、たとえ深い傷を負っていたとしても、癒やすこともでき、さらに強くなれることを学びました。

僕たちはオーストラリアと釜石の交流を通し、互いの文化やコミュニティを深く知ることができました。多くの学生がほかの人の生き方を学ぶ機会になり、両国にとって教育的に良いと思います。

東京オリンピック・パラリンピックは、日本の生活を見せる良い機会だと思います。僕たちが見てきた日本の活気あるコミュニティが、また一歩先に進むと思い、とても興奮しています。２０２１年のハイライトになると思います。

新型コロナウイルスが収まった後、たくさんの人々が日本に集まることを、僕たちは待ちきれません。

釜石鵜住居復興スタジアムを訪ね釜石シーウェイブスRFCの試合観戦を楽しんだオーストラリアの生徒たち＝１９年１１月１６日

オーストラリアンフットボール

オーストラリアのスポーツ、食、音楽を紹介

10月10日(土)交流イベント

会場 釜石鵜住居復興スタジアム内東側　時間 午前11時～午後4時30分

いわて・かまいしラグビーメモリアルイベントに合わせて開催

スポーツ体験ブース
・豪州オリンピックチーム紹介
・オーストラリアンフットボール、クリケット etc

カフェバン
・文化や食事紹介
・ミートパイ、コーヒーetc

アボリジニ伝統楽器演奏
ディジュリドゥ
1回30分／3回程度

【問い合わせ】釜石市国際交流課 0193－27－5713